31P-0736

早期体験学習の実施とその評価－事前事後の学生アンケート調査から－

○島田　憲一[1], 谷口　律子[1], 小野　浩重[1], 大塚　智恵[1], 毎熊　隆誉[1],
西村　多美子[1], 塩田　澄子[1], 五味田　裕[1]（[1]就実大薬）

【目的】早期体験学習は，薬学生として学習に対するモチベーションを高めるために，入学後早い段階で薬剤師の活躍の場を体験することを目標としている．本学では 1 年前期（6 月～7 月）において，病院・薬局それぞれ 1 施設ずつ訪問し，体験学習している．6 年制制度が始まってから細かな改善を繰り返しながら，本年 5 回目の早期体験学習を実施した．そこで今回，早期体験学習プログラムに対する学生の意識や早期体験学習の及ぼす影響を調査する目的で，早期体験学習前後にアンケート調査を実施したので報告する．

【方法】学生は数名のグループとなり，訪問する前には学習計画書，訪問後にはフィードバック報告書の作成を行った．訪問後にはグループ毎に手書きでポスターを作成，発表会を行い，教員・学生による投票結果によって表彰を行った．学生へのアンケートは事前説明時および最終講義時に無記名にて実施した．

【結果・考察】将来の仕事として希望している職種について，病院薬剤師，薬局薬剤師を希望する学生が多かったのは事前・事後アンケートとも同様の傾向であったが，製薬企業と答えた学生が事後アンケートでは減少した．また事後アンケートの CS 分析の結果，要改善項目として挙げられた項目は，「積極性（薬局）」および「時期」であった．自由記述からも施設において積極的に行動できなかったと答えた学生は，満足度が低い傾向が観察された．しかしながら事前アンケートでの期待度を事後アンケートでの満足度がすべての項目で上回ったことが分かった．これら解析から，早期体験学習が学生にとって有意義なものであったと考えられるが，積極的に体験できるよう訪問前の講義時や引率教員による学生への促しが必要であると考えられた．